

令和 3 年 度

(2021年度)

高崎市・安中市消防組合
歳入歳出決算審査意見書

高崎市・安中市消防組合
監 査 委 員



第225-1号
令和4年12月7日

高崎市・安中市消防組合
管理者 富岡賢治様

高崎市・安中市消防組合
監査委員 小泉貴代子
同 今井敏博

令和3年度高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算の審査意見について
地方自治法第292条において準用する同法第233条第2項の規定により審査に付
された令和3年度高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算について審査を行ったので、次
のとおり意見を提出します。

目 次

第1	審査の基準	-----	1
第2	審査の種類	-----	1
第3	審査の期間	-----	1
第4	審査の対象	-----	1
第5	審査の着眼点	-----	1
第6	審査の実施内容	-----	1
第7	審査の結果	-----	1
1	決算の概要	-----	2
2	歳入	-----	3
3	歳出	-----	6
4	実質収支に関する調書	-----	8
5	財産に関する調書	-----	8
第8	審査の意見	-----	8

凡 例

- 文中及び各表中の金額は、原則として円単位で表示した。
ただし、実質収支に関する金額は、千円単位で表示した。
また、千円単位で表示したものは、単位未満を四捨五入した。
- 文中及び各表中で用いる比率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入した。
なお、構成比率(%)の合計が100とならない場合は、一部調整した。
- 増減率は、次式により算出した。
 $(\text{当年度の計数} - \text{前年度の計数}) \div \text{前年度の計数の絶対値} \times 100$
- 文中の表記及び各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「0.0」 当該数値はあるが表示単位未満のもの
「-」 当該数値のないもの
「△」 負数を示し増減を示すときは減を表すもの
「皆増」 前年度に数値がなく全額増加したもの
「皆減」 当年度に数値がなく全額増加したもの
- 文中で金額の後の()内に表示した比率は、表記してあるものを除き、対前年度の増減率である。
- 表中の年度については、元号を省略して表示した。

令和3年度高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算審査意見書

第1 審査の基準

本審査は、高崎市・安中市消防組合監査基準（令和2年高崎市・安中市消防組合告示第3号）に準拠し実施した。

第2 審査の種類

地方自治法第292条において準用する同法第233条第2項の規定による決算審査

第3 審査の期間

令和4年8月31日から10月21日まで

第4 審査の対象

- 1 令和3年度 高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算
- 2 令和3年度 高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算事項別明細書
- 3 実質収支に関する調書
- 4 財産に関する調書

第5 審査の着眼点

全国都市監査委員会が定める「決算審査の着眼点」に基づき、次の項目を主眼として審査を実施した。

- (1) 決算及び関係書類は地方自治法等に準拠して調製されているか。
- (2) 決算書及び附属書類に記載された計数は一致し、正確であるか。
- (3) 予算の執行が適正かつ効果的に行われているか。

第6 審査の実施内容

審査にあたっては、管理者から送付された決算書及び附属書類について、関係書類との照合を行うとともに、必要に応じて、関係職員からの説明を聴取するなどの方法により実施した。

第7 審査の結果

審査に付された高崎市・安中市消防組合歳入歳出決算書及び附属書類は、いずれも関係法令の規定に準拠して作成され、その計数は関係書類と符合し、正確であり、予算の執行及び事務処理においても、おおむね適正に行われているものと認められた。

審査の概要と意見については、次に記述するとおりである。

1 決算の概要

歳入決算額は4,953,271,266円、歳出決算額は4,900,344,357円であり、前年度に比べ収入済額で317,318,637円、支出済額で298,898,681円それぞれ減少している。

当年度の歳入歳出差引額は52,926,909円で、前年度に比べ18,419,956円減少している。歳入歳出差引額から翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は、歳入歳出差引額と同額で、52,926,909円の黒字である。

この結果、実質収支から前年度実質収支を差し引いた単年度収支は、前年度に比べ29,646,642円減少し、18,419,956円の赤字である。

当年度の決算収支等の状況を示すと次表のとおりである。

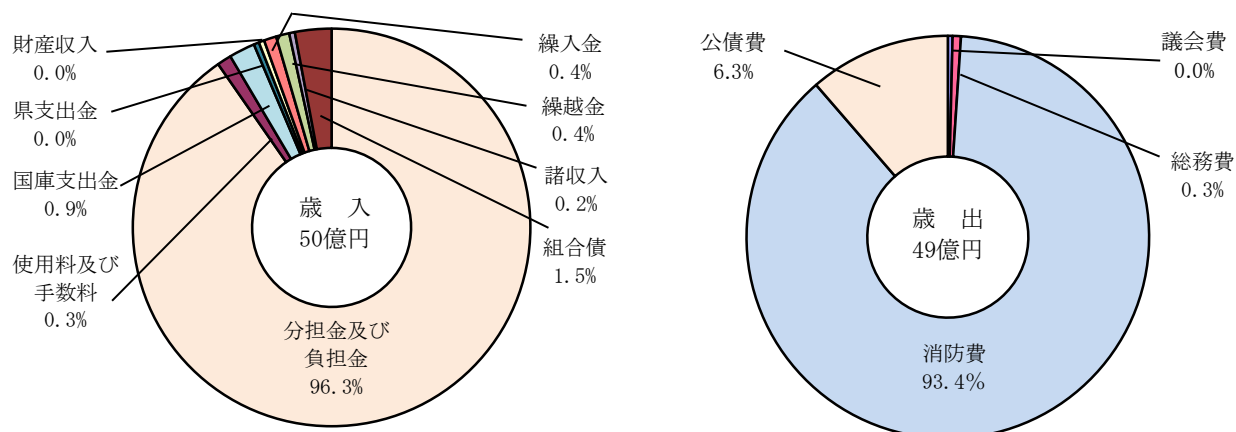
【表1 決算収支等の状況】

(単位：円、%)

区 分	3年度	2年度	比較増減	
			増減額	増減率
歳入総額	4,953,271,266	5,270,589,903	△ 317,318,637	△ 6.0
歳出総額	4,900,344,357	5,199,243,038	△ 298,898,681	△ 5.7
歳入歳出差引額	52,926,909	71,346,865	△ 18,419,956	△ 25.8
翌年度へ繰り越すべき財源	0	0	0	—
実質収支	52,926,909	71,346,865	△ 18,419,956	△ 25.8
基金繰入額	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000	△ 40.0
翌年度繰越額	22,926,909	21,346,865	1,580,044	7.4
前年度実質収支	71,346,865	60,120,179	11,226,686	18.7
単年度収支	△ 18,419,956	11,226,686	△ 29,646,642	△ 264.1

歳入及び歳出の款別決算額の構成比を示すと次のグラフのとおりである。

【款別決算額の構成比】



2 歳 入

(1) 概 況

収入済額は4,953,271,266円で、予算現額に対する執行率は100.1%（前年度100.1%）、調定額に対する収入率は100%（同100%）である。また、収入済額は前年度に比べ317,318,637円減少している。これは主に、分担金及び負担金で36,429,347円、繰入金で60,000,000円、組合債で194,900,000円それぞれ減少したためである。

収入状況を款別に示すと次表のとおりである。

【表2 款別収入状況】

（単位：円、％）

区 分	3年度				2年度	比 較 増 減	
	予算現額	収入済額	収入未済額	執行率	収入済額	増 減 額	増減率
1 分担金及び負担金	4,770,975,000	4,770,975,063	0	100.0	4,807,404,410	△ 36,429,347	△ 0.8
2 使用料及び手数料	13,988,000	14,345,152	0	102.6	16,391,509	△ 2,046,357	△ 12.5
3 国庫支出金	41,919,000	41,919,015	0	100.0	60,377,000	△ 18,457,985	△ 30.6
4 県支出金	1,065,000	1,061,000	0	99.6	749,000	312,000	41.7
5 財産収入	7,000	1,115,576	0	15,936.8	927,203	188,373	20.3
6 繰入金	20,000,000	20,000,000	0	100	80,000,000	△ 60,000,000	△ 75.0
7 繰越金	21,346,000	21,346,865	0	100.0	20,120,179	1,226,686	6.1
8 諸収入	7,112,000	9,108,595	0	128.1	16,320,602	△ 7,212,007	△ 44.2
9 組合債	73,400,000	73,400,000	0	100	268,300,000	△ 194,900,000	△ 72.6
合 計	4,949,812,000	4,953,271,266	0	100.1	5,270,589,903	△ 317,318,637	△ 6.0

(2) 款別決算状況

款別の決算状況は、以下のとおりである。

1 款 分担金及び負担金

歳入総額の96.3%（前年度91.2%）を占める分担金及び負担金の収入済額は4,770,975,063円で、前年度に比べ36,429,347円減少している。これは、消防費負担金で49,846,000円増加したものの、消防共同指令センター運営事業費負担金で86,275,347円減少したためである。

消防共同指令センター運営事業費負担金は、高崎市等広域消防局と北西毛地域の5つの広域消防本部で共同運用している「たかさき消防共同指令センター」に係る経費の各組合の負担金である。

消防共同指令センター運営事業費負担金の収入状況は次表のとおりである。

【表3 消防共同指令センター運営事業費負担金の収入状況】

(単位：円、%)

区 分	3年度	2年度	比較増減	
			増減額	増減率
利根沼田広域市町村圏振興整備組合	32,473,589	50,935,777	△ 18,462,188	△ 36.2
渋川地区広域市町村圏振興整備組合	33,189,013	56,086,298	△ 22,897,285	△ 40.8
多野藤岡広域市町村圏振興整備組合	32,066,562	49,513,059	△ 17,446,497	△ 35.2
富岡甘楽広域市町村圏振興整備組合	31,346,520	45,921,010	△ 14,574,490	△ 31.7
吾妻広域市町村圏振興整備組合	29,074,379	41,969,266	△ 12,894,887	△ 30.7
合 計	158,150,063	244,425,410	△ 86,275,347	△ 35.3

2款 使用料及び手数料

収入済額は14,345,152円で、前年度に比べ2,046,357円減少している。これは主に、消防手数料で2,016,200円(12.7%)減少したためである。

収入の内容は、次のとおりである。

○内容と収入済額

- ・行政財産使用料 456,402円
- ・危険物製造所・貯蔵所・取扱所等申請及び検査手数料 13,770,250円
- ・煙火消費許可手数料 118,500円

3款 国庫支出金

収入済額は41,919,015円で、前年度に比べ18,457,985円減少している。これは、災害対応特殊消防ポンプ自動車購入の補助金で25,278,000円、災害対応特殊救急自動車・高度救命処置用資機材購入の補助金で12,502,000円それぞれ皆増したものの、救助工作車購入の補助金で60,377,000円皆減したためである。

4款 県支出金

収入済額は1,061,000円で、前年度に比べ312,000円増加している。これは主に、消防共同指令センター維持事業の補助金で305,000円皆増したためである。

5款 財産収入

収入済額は1,115,576円で、前年度に比べ188,373円増加している。これは主に、老朽化車両等の物品売払収入で190,300円(20.6%)増加したためである。

6款 繰入金

収入済額は20,000,000円で、車両修繕の財源に充てるため、基金から繰り入れを行ったものである。

7款 繰越金

収入済額は21,346,865円で、前年度に比べ1,226,686円増加している。

8款 諸収入

収入済額は9,108,595円で、前年度に比べ7,212,007円減少している。これは主に、県消防学校派遣職員経費負担金で8,087,003円皆減したためである。

9款 組合債

収入済額は73,400,000円で、前年度に比べ194,900,000円減少している。これは主に、消防ポンプ自動車等整備の組合債で73,400,000円皆増したものの、高規格救急自動車等整備の組合債で179,000,000円、消防指令システム機能強化整備の組合債で74,000,000円それぞれ皆減したためである。

当年度は新たに73,400,000円を借り入れ、302,934,388円の元金償還を行った結果、当年度末残高は1,211,974,123円となり、前年度に比べ229,534,088円（15.9%）減少している。

組合債現在高の状況を示すと次表のとおりである。

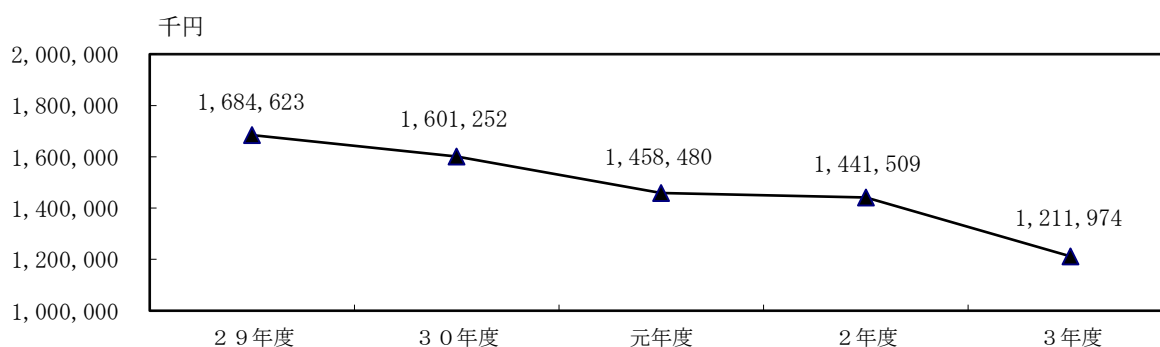
【表4 組合債現在高の状況】

(単位：円)

区 分	2年度末 現在高	3年度 発行額	3年度元利償還金		3年度末 現在高
			元 金	利 子	
消 防 施 設	1,441,508,511	73,400,000	302,934,388	6,141,669	1,211,974,123

最近5か年間の組合債残高の推移を示すと次のグラフのとおりである。

【組合債残高の推移】



3 歳 出

(1) 概 況

支出済額は4,900,344,357円で、予算現額に対する執行率は99.0%（前年度98.7%）である。支出済額は前年度に比べ298,898,681円減少している。これは主に、消防費で315,421,365円減少したためである。

不用額は49,467,643円で、18,649,319円（27.4%）減少している。

支出状況を款別に示すと次表のとおりである。

【表5 款別支出状況】

（単位：円、%）

区 分	3年度			2年度	比 較 増 減	
	予算現額	支出済額	執行率	支出済額	増 減 額	増減率
1 議 会 費	644,000	621,929	96.6	610,597	11,332	1.9
2 総 務 費	16,385,000	16,348,317	99.8	16,376,685	△ 28,368	△ 0.2
3 消 防 費	4,602,706,000	4,574,298,054	99.4	4,889,719,419	△ 315,421,365	△ 6.5
4 公 債 費	310,077,000	309,076,057	99.7	292,536,337	16,539,720	5.7
5 予 備 費	20,000,000	0	0	0	0	—
合 計	4,949,812,000	4,900,344,357	99.0	5,199,243,038	△ 298,898,681	△ 5.7

(2) 款別決算状況

款別の決算状況は、以下のとおりである。

1 款 議会費

支出済額は621,929円で、予算現額に対する執行率は96.6%である。この主なものは、議員報酬604,929円である。

2 款 総務費

支出済額は16,348,317円で、予算現額に対する執行率は99.8%である。この主なものは、事務費負担金16,308,000円である。

3 款 消防費

支出済額は4,574,298,054円で、歳出総額の93.4%（前年度94.1%）を占めており、予算現額に対する執行率は99.4%である。

支出済額は、前年度に比べ315,421,365円減少している。これは主に、消防指令システム機能強化整備委託料の皆減により常備消防費で157,245,653円（3.5%）、救助工作車購入費の皆減により消防施設費で158,175,712円（43.9%）それぞれ減少したためである。

支出の主な内容は、次のとおりである。

○主な事業と支出済額

(常備消防費)

- ・職員給与等人件費 3,566,238,882円
- ・職員退職手当 239,981,718円
- ・燃料費等の需用費 91,174,467円

(消防共同指令センター運営事業)

- ・電話料等の役務費 40,973,821円
- ・消防指令システム等保守点検委託料 187,000,000円

(消防施設費)

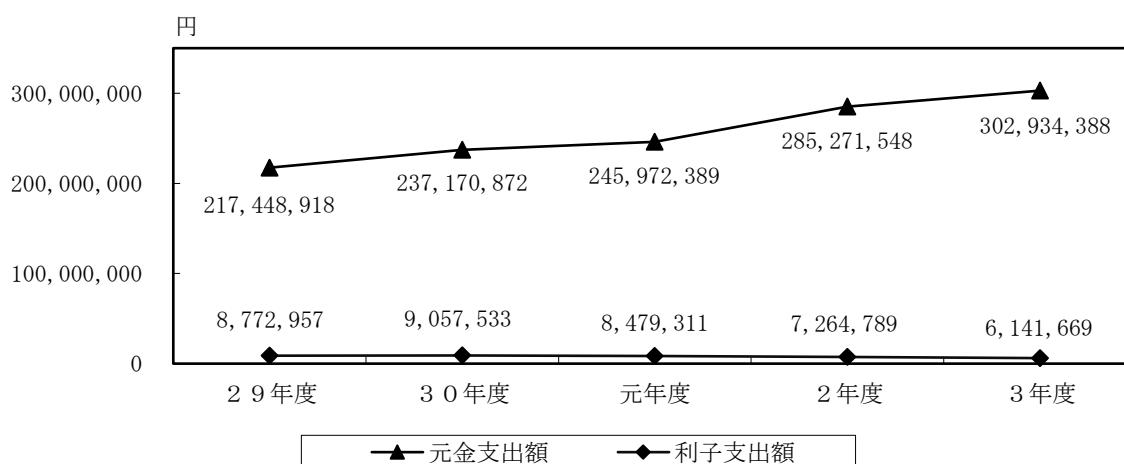
- ・車両修繕料等の需用費 44,206,732円
- ・高規格救急自動車購入費 34,607,980円
- ・水槽付消防ポンプ自動車購入費 99,550,000円

4款 公債費

支出済額は309,076,057円で、予算現額に対する執行率は99.7%であり、前年度に比べ16,539,720円増加している。

最近5か年間の支出済額の推移を示すと次のグラフのとおりである。

【公債費の支出済額】



5款 予備費

当初予算額は20,000,000円で、予備費充用がなされなかったため、予算現額及び不用額は20,000,000円である。

4 実質収支に関する調書

当年度の実質収支額は52,927千円で、前年度に比べ18,420千円（25.8%）減少している。
実質収支額のうち、地方自治法第233条の2ただし書の規定に基づき30,000千円が
消防施設整備等基金に繰り入れられた。

5 財産に関する調書

（1）公有財産

土地の所有はない。高崎市・安中市からの借用である。
建物の当年度末現在高は10,585.84㎡で、前年度末と同様である。

（2）物 品

当年度末現在高は210点で、前年度末と同数である。これは、消防自動車等が計7点増加
し、貨客両用自動車等が計7点減少したためである。

（3）基 金

当年度末現在高は132,229,605円で、前年度末に比べ50,000,176円増加している。
これは、高崎市・安中市消防組合消防施設整備等基金の設置、管理及び処分に関する
条例に基づき20,000,000円が取り崩されたものの、70,000,176円が積み立てられたため
である。

第8 審査の意見

令和3年度は、豪雨による自然災害やビル火災などにより、全国で人的被害及び物的被害が発生し、更に長引く新型コロナ感染拡大の影響により、消防を取り巻く状況が大きく変化している中、高崎市・安中市消防組合は、迅速な消防・救急・救助活動を実施し、消防力の充実整備を図ったほか、火災発生防止のために違反是正を積極的に働きかけた。

施設整備では各署分署の施設改善や維持管理に努め、消防装備等の整備では水槽付消防ポンプ自動車などを更新し、より一層の高度化と充実強化を図った。

予防行政では集客施設や工場などへの立入検査を実施して、防火管理等の徹底を図るとともに、令和3年12月に大阪市北区で発生したビル火災を受け、特定一階段防火対象物への緊急立入検査を実施し、消防法令違反を改善するよう重点的に指導している。

救助業務では、令和3年7月に熱海市で発生した土石流災害救助に出動するとともに、災害に備えた訓練強化や救助体制の充実を図った。

救急業務では新型コロナの感染防止対策を強化し、医療機関と連携した傷病者の的確な処置、迅速な搬送業務に努めている。

また、高崎市等広域消防局と群馬県、一般財団法人救急振興財団が主催となり、令和4年1月にWEB開催した「第30回全国救急隊員シンポジウム」では、全国の救急隊員、医療関係者相互の知識を深め、実務の向上を図ることができた。

近年の自然災害・局地災害・多数疾病者災害など、多種多様化する救急現場や災害現場では、臨機応変な対応力が求められている。

今後とも、各種災害から住民の生命、身体及び財産を守るため、的確かつ迅速な総合的消防力の充実強化に努められたい。